

令和7年度 第1回 織田廣喜美術館運営協議会 会議録

1. 会 議 の 名 称: 令和7年度 第1回 織田廣喜美術館運営協議会

2. 開 催 日 時: 令和7年7月30日(水)午後1:30～

3. 開 催 場 所: 織田廣喜美術館 市民アトリエ

4. 公開非公開の別: 公開

5. 出 席 者: ※敬称略

(1)出席委員

会 長 緒方 泉

副会長 丸山 桃子

委 員 三木 一司

委 員 坂本瑠里子

委 員 川尻 司

(2)欠席委員

委 員 石場 広規

(3)教育委員会

生涯学習課長 末永 康洋

生涯学習課長補佐(館長) 松浦 宇哲

(4)指定管理者 (株)図書館流通センター

統括責任者 下田 富美子

6. 傍 聴 人 数: 0人

7. 議題及び審議の内容

【議題】

(1)令和6年度業務点検・評価について

(2)令和7年度事業進捗について

(3)その他

【提出資料】

- (1) 点検評価事業シート(R6事業分)-----資料1
- (2) 令和7度事業経過報告-----資料2
- (3) 令和7度入館者等集計-----資料3

議題及び審議の内容

議題1: 令和6年度業務点検・評価について

文化芸術推進事業について事務局による説明(資料1)

質疑応答

- **事務局:**美術館としては学校に対してアプローチを行っているつもりだが、十分ではないと感じている。学校現場では美術関係のカリキュラムの優先順位が低くなりがちで、会長の指摘のとおり多くの課題を抱え、後回しになっている現状がある。校長会でも話題に上った。嘉麻市の教育委員会では、①学力向上、②規範意識の醸成、③不登校の解消、④郷土を愛する人材の育成、の4つを大きな教育目標としている。美術館は子どもの美的感覚を養う環境が整っているにもかかわらず、学校側で十分活用できていないことは問題である。優先順位の問題だけなのか、一方通行の働きかけになっているのかを把握するため、学校へのヒアリングを行いたい。
- **委員:**不登校対応の一環として美術館を活用できるのではないか。授業中は学校に行けなくても、美術館なら来られる子どももいるかもしれない。
- **事務局:**教育委員会には「教育研究所」があり、不登校の子どもを対象に「ユートピア」という体験活動を行っている。ここに来られる児童・生徒は美術館も利用しているが、そこにも来られない子どももいる。美術館の環境を活かすため、更に掘り下げた対応が必要である。
- **委員:**目標値80や85は高すぎるように感じる。基準の算出方法や、現実に即した設定が必要ではないか。
- **事務局:**第6次教育アクションプラン(令和6～8年度)で、過去の平均値を参考に設定している。コロナ前の利用回数をベースに若干下げたが、まだ回復していない。市民アトリエの延べ利用回数は計測方法の引継ぎミスもあり齟齬があった。主催事業を含めると現在は70回程度で、コロナ前には至っていない。
- **委員:**授業でタブレットを用いた作品鑑賞も有効だと思う。来館者数には反映されないが、美術館活用の実績にはなる。
- **事務局:**評価基準の見直しが必要である。第7次アクションプランでは図書館や公民館に

も波及する基準を設けたい。

- 会長：文化庁も入館者数からウェルビーイング評価へ移行しつつある。来館者の満足感・幸福感を指標とする方法を次期アクションプランに導入してもよい。

美術館運営管理事業について事務局による説明（資料1）

質疑応答

- 委員：立派な美術館があるのに活用できていないと他団体から言われる。市民が価値を感じられていない。
- 事務局：庁内連携が不十分である。健康や高齢者福祉との連携も弱い。過去の市民イベントでも美術館を知らない人が多かった。
- 会長：東京都美術館ではパーキンソン病患者向けプログラムがある。高齢者の健康教室やダンス、不登校児支援などと組み合わせられる。健康部局との連携も必要だ。
- 委員：美術館は教育・健康・親子の時間など多様な役割を持てる。自販機設置やクーリングシエルター化も有効である。
- 委員：美術館・図書館をケアプランの拠点とする活用も考えられる。
- 会長：世代ごとに活用の意味は異なる。所管課だけでなく市全体で施設活用を検討すべき。
- 委員：高齢者の外出機会として敬老会バス旅行の立寄り先にするとよい。
- 会長：高齢者の引きこもり対策として美術館が通いの場となり得る。今は利用のあり方を変える好機である。美術館はエネルギーを得られる場であり、交感神経・副交感神経のバランスを整える場でもある。

企画展事業について事務局による説明（資料1）

質疑応答

- 委員：特別企画展は石川えりことささめやゆきの二人展か。
- 事務局：福岡県美術展覧会も特別企画展に位置付けている。令和6年度では富田菜摘展を実施した。来館者の少ない時期にも展示できたのは指定管理者制度の成果である。
- 委員：入館者数は目標未達だが、展覧会の満足度は高かった。
- 会長：来館者数以外にSNS反応数なども評価軸になり得る。
- 委員：富田菜摘展では撮影可のゾーンが広く、SNSでの反響があった。
- 会長：SNS投稿は再来館や新規来館につながる。評価指標として活用できる。
- 委員：顔はめパネルや撮影・投稿の許可なども有効である。
- 会長：ハッシュタグを用いて応援団意識を醸成できる。

美術教育普及事業について事務局による説明(資料1)

質疑応答

- 会長: ボランティアの年齢構成は。
- 指定管理者: 高齢者が中心で、ほぼ女性である。

議題2: 令和7年度事業進捗について

指定管理者による説明(資料2)

事務局による説明(資料3)

- 会長: 柴田ケイコ絵本原画展特別プログラムの取組みは報道機関に通知しているか。
- 指定管理者: 通知している。
- 会長: 全国的にも初の取組みであり、発信すべきである。託児付きや支援学校児童への配慮は重要で、保護者の声も拾ってほしい。
- 事務局: 令和7年度は絵本原画展(柴田ケイコ展)をはじめ、キッチンカー出店やバリアフリー企画など意欲的に実施している。入館者数やグッズ売上も順調。市民参加型の「オダビ展」も来館者増につながっている。
- 委員: 柴田ケイコ作品は幅広い年代に人気がある。自治会などでも積極的に宣伝したい。
- 委員: 柴田ケイコ絵本原画展に孫と一緒にいく予定。キッチンカー企画も継続してほしい。
- 委員: 中学校、高校、大学美術部作品を展示する企画もよい。学校との連携を進めるべき。
- 事務局: 嘉麻市民展は指定管理者が開始した事業であり、学校へのアプローチで生涯学習の場を広げたい。周辺自治体広報やイベント掲載依頼も検討する。
- 委員: SNSの更新頻度が高く、努力が見える。バリアフリー美術館の取組みに感動した。広く知ってもらいたい。情報サイト「アルトネ」への掲載も希望する。若手から炭鉱題材のベテラン作家まで幅広く紹介してほしい。
- 会長: 8月8日に福岡県内高校美術教員研修会が当館で開催される。学生作品展示の機会として活用を呼びかけたい。

議題3: その他

なし。

閉会

この会議録は、緒方会長に確認いただきました。